

指導方法等の改善計画について〔理科〕

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校47.8%, 県51.8%)

対県比 92.3%

学力定着実態調査 本年度正答率

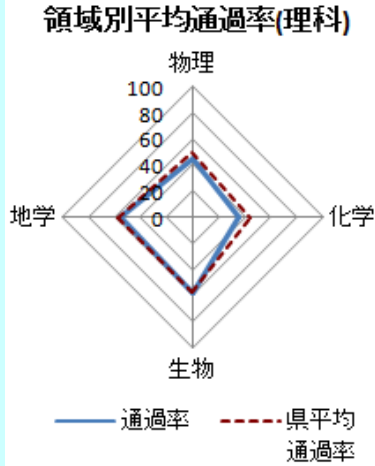
本校66.4%
全国64.0%

対全国比 103.7%

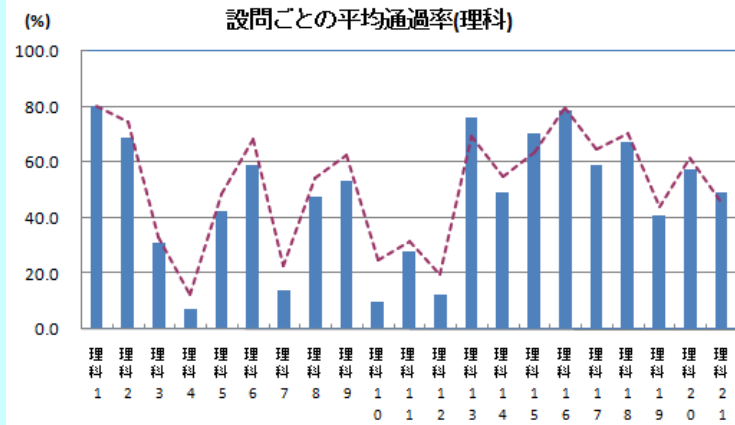
本年度の結果について

通過率は、「タイプⅠ」の問題が50.8%、「タイプⅡ」の問題が45.1%と、「タイプⅠ」に比べて5.7%低い。広島県の平均と同様の傾向がみられ、活用する問題に課題がある。領域別に分析すると、物理が45.9%、化学が35.4%、生物が57.5%、地学が54.9%となっており、物理領域と化学領域、特に化学領域に課題が残った。

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



重点課題

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】(正答率7.0%) (対県平均-5.2%)

「力の表し方」についての設問に課題が見られた。机の上の物体にはたらく垂直抗力の作図ができていない生徒が多かった。

【課題2】(正答率9.9%) (対県平均-15.1%)

「液体の混合物を分離する方法」についての設問に課題が見られた。液体の混合物を分離する方法が蒸留であると答えられない生徒や蒸留が沸点の違いを利用したものであると答えられない生徒が多かった。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】目標値(30%) 実施後数値()%

「力の表し方」についての作図をする場面で、力の3要素(特に作用点)を意識して作図させる。物体が動かないときは、同じ大きさの反対向きの力がはたらいていることを指導する。

【課題2】目標値(40%) 実施後数値()%

蒸留や再結晶などの混合物を分離する方法は、物質の沸点や溶解度の違いを利用していることをきちんと確認して、説明させる場面を設定する。

※今後の改善計画については別紙